

政策統括官付統計企画管理官付  
普及指導担当主査

## 武内 陽子 TAKEUCHI YOKO

平成 19年 4月 総務省採用  
統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係  
平成 20年 4月 統計局総務課国際第一係  
平成 22年 4月 人事・恩給局任用第一係  
平成 24年 4月 大臣官房政策評価広報課  
平成 25年 1月 人事・恩給局退職手当第一係  
平成 26年 4月 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
定住外国人施策推進室  
平成 27年 4月 同 定住外国人施策担当主査  
平成 29年 4月 経済産業省大臣官房調査統計グループ  
経済解析室解析二係長  
平成 30年 4月 現職



## 統計で繋がる 国、地方、人

### 統計で繋ぐ国と地方との連携

政策統括官(統計基準担当)は政府統計の統括・司令塔の役割を担っており、近年の統計改革のもと、政府統計に係る様々な課題への対応に取り組んでいます。その中に統計調査の環境改善、統計リソースの確保等、地方自治体との連携が不可欠な課題も数多くあり、私が働く普及指導担当は、こうした地方と国をつなぐ役割を果たしています。その中で私は、環境改善の一環として、広報の業務と、統計リソースとなる統計調査員の確保対策業務を担当しています。

広報を始め、多くの自治体等に協力をいただき、全国に広がる業務のため、見えない相手にどう伝えるか、について常に考え、工夫や改善を加え取り組む必要があり、責任とやりがいを感じています。また、統計改革の方向性を踏まえ、調査員に対して、年約110回、5千人程度の大規模研修も企画・実施しています。自治体との調整、相談を行いながら進める業務が多いため、やりがいと学びが多く、少しでもよい架け橋になればと思います。

### 多様な経験、人との出会い

総務省の魅力は、多様な経験や成長する機会が多くあることだと思います。私自身、これまで同じ統計行政でも、国際業務や指数業務と多角的に統計行政に携わることができました。また、人事行政部局では、法令の改正業務のほか、ILO総会やOECDの国際会議に参加させていただき、OECDでは、日本の人事行政について国際会議の場でプレゼンを行う経験をさせていただきました。プレゼン自体も貴重な経験でしたが、各国が会議の事前の段階から情報収集や協力依頼、交渉を通じ、意見表明を行っている姿を目の当たりにし、公的議論における調整・交渉能力の重要性を強く感じるきっかけになりました。

誰かの役に立つ仕事がしたい、そう思い、私は総務省に入省しました。総務省の業務は幅広く多様な分、多くの人の様々な生活、暮らしに繋がっています。困難もありますが、総務省には多様な知見のある方、同時に面白い方が多く、そうした方々と相談しながら一緒に仕事ができること、またどの業務もやりがいと学びがあり、常に新しく貴重な経験ができる、そんな魅力ある職場が総務省だと感じています。

### Q これまで携わった仕事で達成感があった仕事は？

A 総務省は他省へ出向の機会もあり、私が出向した内閣府では、日本に住む外国人への各省施策の指針・行動計画を所掌しており、その取りまとめや、内閣府で取り組むべき具体的な施策をどう実施するか考え、形にしていく業務を担当しました。そのうち、災害時の情報伝達の取組みでは、「緊急地震速報と津波警報の多言語化」に気象庁や観光庁、また、外国人が多く居住する自治体と協力し取り組み、その成果は自治体をはじめ、災害情報配信メディアやツールへの活用等、広く普及が進んでおり、大きな達成感を感じました。

### Q 今後取り組んでみたい仕事はなんですか？

A これまでの統計、人事行政、国際、多文化共生、広報など、どの業務もやりがいがあり、今後もこうした業務に携われたらと思います。どの業務においても、自分の考えを持って取り組むこと、また、専門性と同時に、広く状況を理解し、柔軟に調整し対応することが重要だと強く感じています。そのため、今後も様々な経験を重ね、他の分野との比較や理解を深め、幅広い力を身につけたいです。

Private  
Time

美味しいものを食べると元気がでます。また、休日は、前から気になっていた場所に出かけたり、映画を観たり本を読んだりなど、どんなことでもいいので、何か一つ自分が興味のあることや、やってみたいことをのんびり気楽に行うようにしています。様々なことを見たり、感じることで、自分の考えが整理されたり、別の大事なことに気づくきっかけになっています。

